

令和8年度 阿倍野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率（％）		平均無解答率（％）		平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学	(参考)英語3技能
3 年	学校	106	64	61	4.8	10.3	528
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

【国語】学習指導要領の「知識及び技能」内、「(2)情報の扱い方に関する事項」のポイントが全国平均、府平均ともに下回っていた。情報と情報の関係を正しく理解しきれていないことが伺える。一方で、「思考力、判断力、表現力等」の項目については、全項目で全国平均、府平均を上回っていた。評価の観点別に見ても、同様の傾向が見られた。文章を読み取り、考えて書き表す力は認められたが、複数の情報の正確な読み取りや、語句の意味や用法の適切な理解については課題が見つかった。

記述形式の問題については、無回答率はとても低くチャレンジする姿勢が見られたが、正答率は全国平均と同等であった。【数学】本校の平均正答率は61%であり、大阪府平均(55%)および全国平均(57%)を上回る結果となった。領域別に見ても「図形」「関数」「データの活用」など各領域で全体平均を上回っており、特に図形領域で記述問題(問題8(2)の合同を使った証明、正答率62.5%)などでは高い論理的思考力が発揮されている。一方で課題となる点も以下のように明確に見られる。

1. 記述式・理由説明問題の無解答率の高さ

数学的な考え方を言葉や式で説明する問題(問題6(3)の証明記述で無解答率31.7%、問題7(2)の関数を用いた説明で無解答率39.4%)において、白紙のまま提出する生徒が約3~4割程度存在する。このことから、思考・表現を途中で諦めてしまう層がいると考えられる。

2. 基本概念・基礎計算の定着度における二極化

正答数分布を見ると、上位層が厚い一方で、正答数5問未満の低得点層も一定数存在する。反比例の変域・値の処理(問題4)や同類項の整理(問題2)といった1・2年次の基礎的事項で誤答・無解答となる生徒が取り残されている状況が伺える。

【英語】リスニングに関しては半数以上の生徒が何を問われているか理解しており、全国平均からもほぼすべての問題において上回っている。また、読解力問題に関しても半数以上又は、問題によっては7割がたの生徒が文章を理解して解いている。相手に伝えたい事柄を表現する問題に関しても全国平均を上回っている。自分自身の言葉で、30字以内での英文も6割の生徒が自分の意見を伝えることができている。授業内での言語活動が結びついていると思われる。

今後に向けて

【国語】今後授業を通して、文章の読解にとどまらず、図表を正確に読み取ったり、語句の正しい理解を図ったりしていく必要がある。また記述問題については、問われている内容をつかみ、鍵となる語句や部分を用いながら文を構成していく力をつけることが必要である。

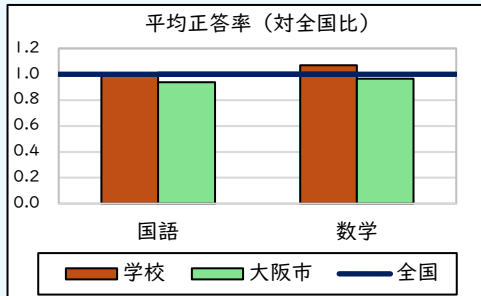
【数学】今後の授業づくりにおいては、基礎学力が定着していない生徒を取りこぼさないための丁寧な手立てを講じる必要があると感じた。具体例としては以下のような取り組みが考えられる。3年生の新単元の指導に入る際に、単元の導入や小テスト、振り返りの時間等を活用し、1・2年次で学習した基礎基本の復習を組み込む。適宜1・2年次の復習をプリント学習形式で行い、個々の理解度を把握することと、各単元の基礎固めを行う。また、記述・説明問題に対して苦手意識や抵抗感を持つ生徒に対し、最初から完璧な論述を求めず、まずは着眼点やキーワード、数値の根拠を1つ書いてみる、といったスモールステップを挟んだ指導を行っていく。上述したような取り組みや、指導の工夫を通じて基礎的な項目に不安を抱える生徒も安心して学び直しながら思考を深められるような授業を展開できるように努める。

【英語】特になし

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

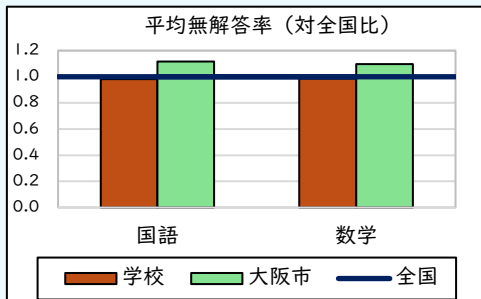
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	64	61
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



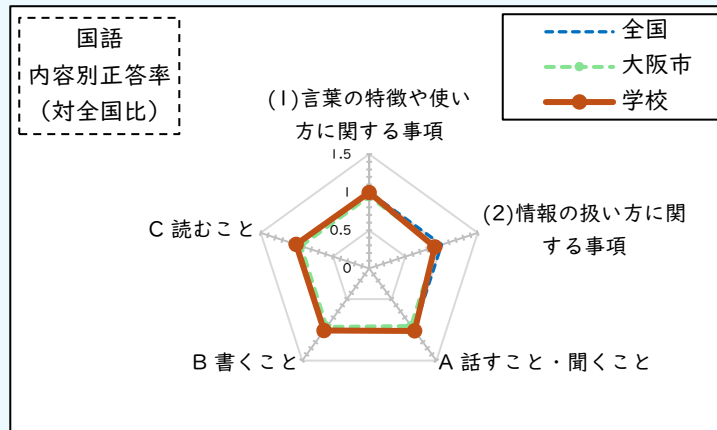
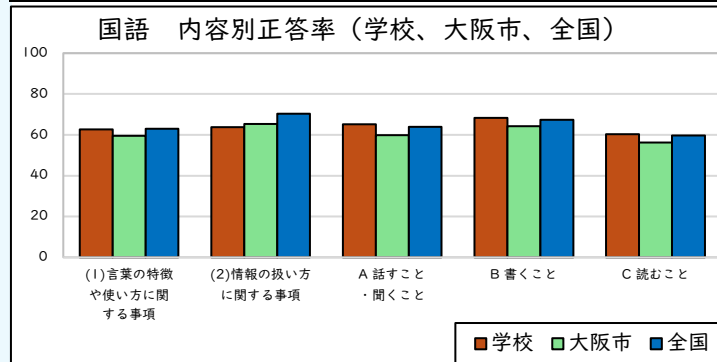
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	4.8	10.3
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



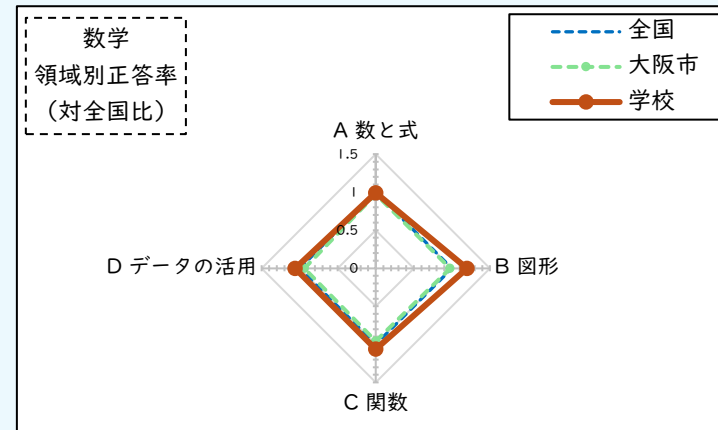
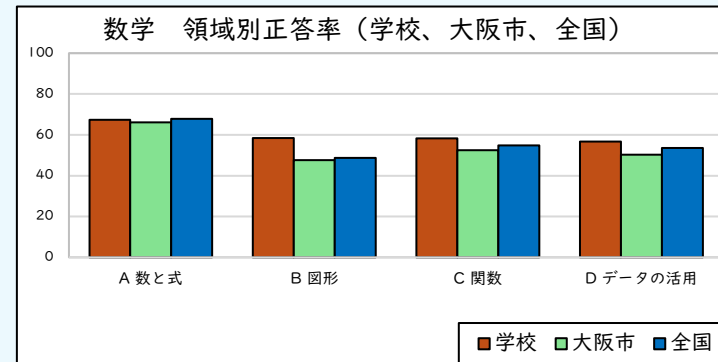
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	62.7	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	63.8	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	65.1	59.9	63.9
B 書くこと	3	68.3	64.2	67.4
C 読むこと	3	60.3	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	67.3	66.1	67.8
B 図形	4	58.4	47.6	48.7
C 関数	3	58.3	52.5	54.8
D データの活用	4	56.7	50.2	53.5

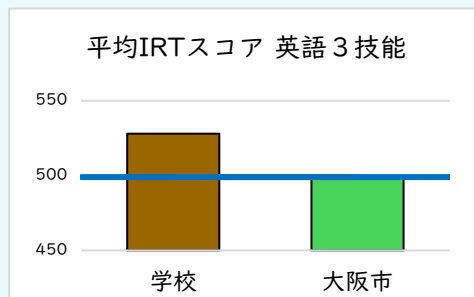


令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	(528)
大阪市	(499)
全国	(499)

※（参考）3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

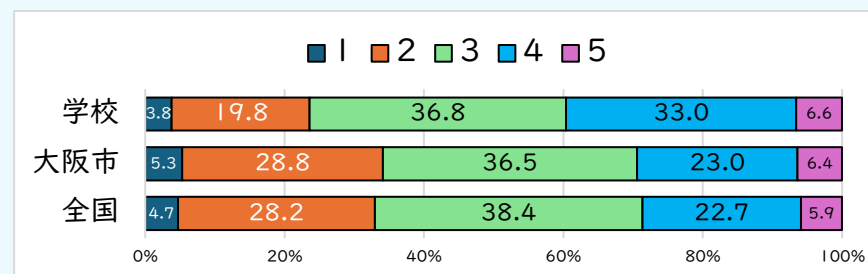
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（3技能）

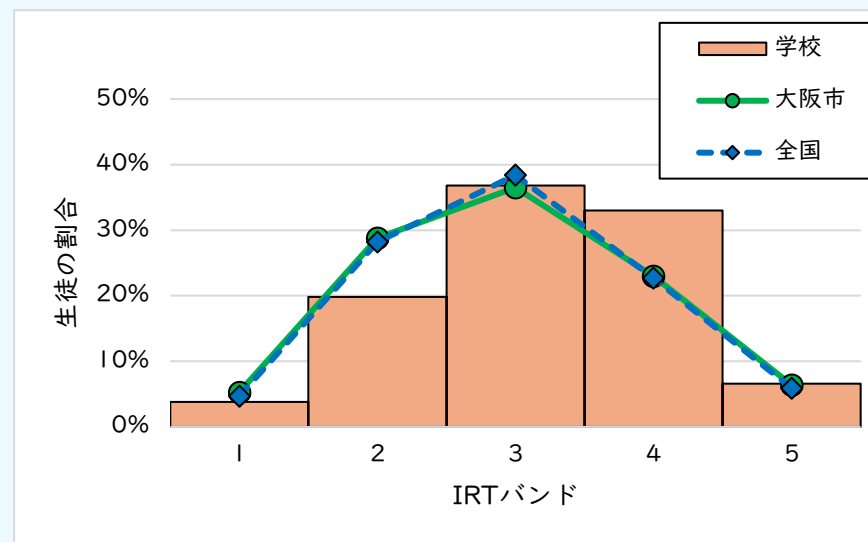
	1	2	3	4	5
学校	3.8	19.8	36.8	33.0	6.6
大阪市	5.3	28.8	36.5	23.0	6.4
全国	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

※3技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（3技能）



IRTバンド分布グラフ（3技能）



生徒質問調査より

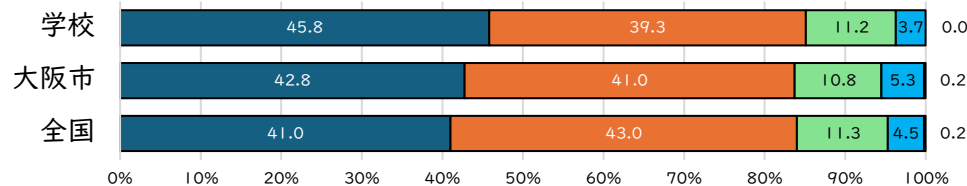
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号 質問事項

(8)

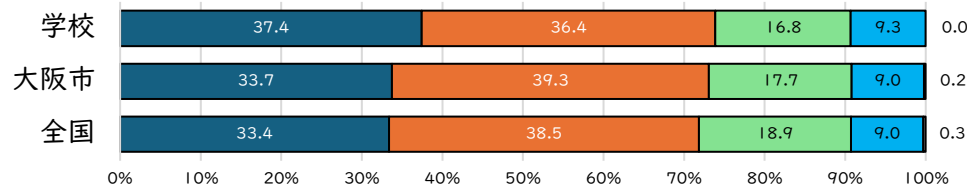
自分には、よいところがあると思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(13)

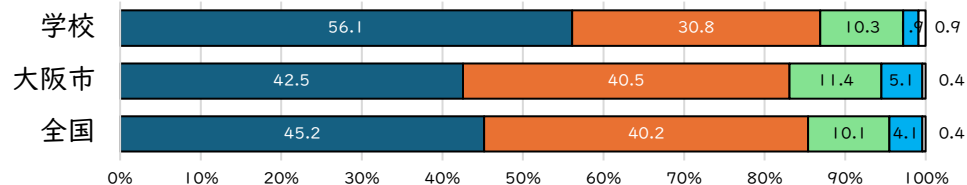
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(15)

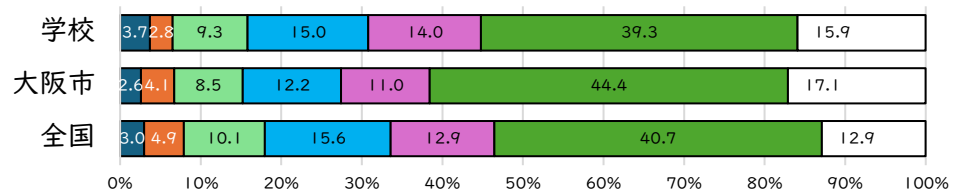
学校に行くのは楽しいと思いますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(26)

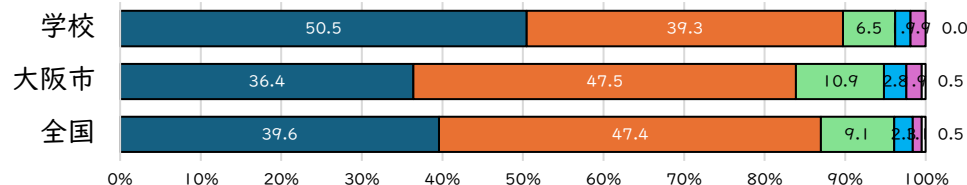
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



1 2時間以上
2 1時間以上、2時間より少ない
3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない
5 10分より少ない
6 全くしない

(42)

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号

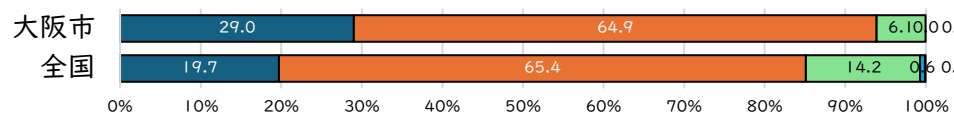
質問事項

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

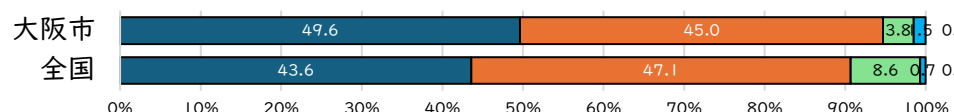


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(8)

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

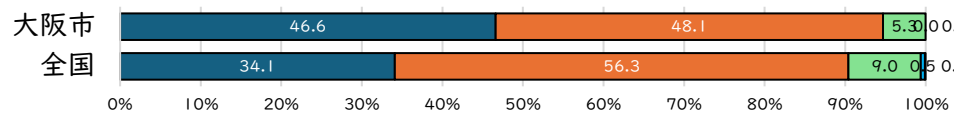


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(9)

調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

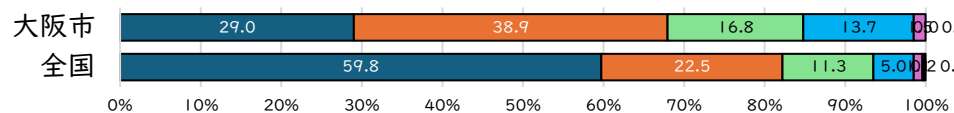


1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

(68)

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

【学校の回答】 3 週3回以上

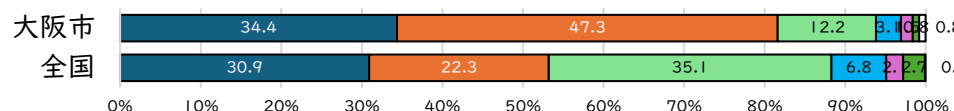


1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）
2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）
3 週3回以上
4 週1回以上
5 月1回以上
6 月1回未満

(75)

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

【学校の回答】 4 持ち帰らせていない



1 毎日持ち帰って、毎日利用させている
2 毎日持ち帰って、時々利用させている
3 時々持ち帰って、時々利用させている
4 持ち帰らせていない
5 持ち帰ってはいけないこととしている
6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている